



烈風吹きすさぶ中で

谷川

茂倉岳

—長谷川

【日時】 2009年12月5日(土)～6日(日)

【メンバー】 L棚橋、佐貫、長谷川

当初は銀山平から越後駒ヶ岳の予定であったが、低気圧等の通過もあり、影響が少し緩和されるとのことで茂倉岳への変更となった。入山日の朝、土樽周辺の山を見回しても雪がない。道路の脇や麓の山の低い部分にも雪は見当たらない。あらためて雪の少なさを実感した。

登山口より雪のない登山道を進む。前の週に買ったプラブーツの足へのフィット感はますますのようだ。順調に高度をかせいでいく。高度 1000mを越えるあたりから雪が少しずつ出てきて、1200mでようやく雪が途切れることがなくなった。上空の風が徐々に強くなっているように思われたが、この時はまだ「冬山だから、多少は吹くよな」くらいにしか思っていなかった。矢場の頭の手前で徐々に風は強くなってきた。

矢場の頭を越すあたりから森林限界を越え、風をもろに受ける。「今日は何か違う」と思ったあたりで立って歩くのは厳しくなる。一旦戻って、少し風を避けられるところで一息ついて、棚橋さんに先に行ってもらおう。飛ばされたくないなと思うところはひとまずよちよち歩きで進む。テントを張れるような状態ではないが、小屋なら何とかなるということで頑張っていくこととなった。幸い気温は高く、0度くらいなのだろうか全く寒くはない。

そこから先も風は強いままで耐風姿勢というか這いつくばるような感じで風に耐えじわりじわりと進む。棚橋さんはさすがで、上体を起こしたままでふらつかずに進んで行く。それにしても強風の切れ目を探すというのはなかなか難しいものだと思う。この風は待てどもあまり変化がない気がする。小屋まで夏道なら1.5時間だが、前かがみの姿勢を続けているのでかなり疲れた。あまり進んでいないのだが、小屋を見過ごしたのではないかとも思ってしまう。

視界もよくないので直前まで見えなかったが、ついに避難小屋が 10m ほど先に見えた。やっと終わったと思うのもつかのま、小屋の正面は猛烈な風の通り道であった。少し回りこむようにして小屋の横に行くがどんな吹き方をしているのか、ほとんど強さは変わらない。棚橋さんが小屋につき、つづいてよちよち歩きで進む。あっと思った瞬間体が浮いて 2m ほど後ろに飛ばされてしまった。幸い危険なところではないので問題はなかったが、あまりの風の強さにびびる。いつの間にか順番交代で佐貫さんの後ろにまわり、ピックを雪面にさしてじわりじわりと進む。小屋正面の階段は凍結していることもあり、この風ではとても行けそうにない。もし音声なしの映像を見たらなんとも情けない姿なのだが、正面階段の最上段に横から這い上がった。最後は階段に這いあがった僕を棚橋さんに小屋

の扉からひっぱってもらい、小屋の中へ入った。最後の 10m に 10 分以上かかってしまった。風のない小屋の中へ入ると小屋のありがたみが身にしみて、みんなで安堵した。風はやみそうもないため、少し落ち着いてから命がけの雪取りを棚橋さん、佐貫さんに行っていた。



茂倉岳山頂にて

時間的には早く、快適な小屋の中で宴会を行うも、外は夜半まで強風が吹き荒れていた。

翌日、起床すると心配した風も収まっている。視界はあまりよくないが、予定どおり出発することとなった。行程は多少もぐるところもあるが、ワカンをはくほどのこともなく、アイゼンで快適に進む。茂倉岳を越え、武能岳へ向かう。夏道がほとんど雪で埋まっていないのでルートがわかりやすい。それにしても気温が高く、終始 0 度くらいで落ち着いていた。



茂倉岳から武能岳方面を望む

武能岳を過ぎるとひたすら下り蓬峠へ着いた。蓬峠からも順調に下っていくと間もなく、景色から雪は全く消えた。秋山のような登山道をひたすら下っていき、登山口へ戻った。

今回は予期していない強風をくりましたが、耐風姿勢等大変勉強になりました。入山前の天気図、帰宅してから資料を見てみましたが、何故あのような風が吹いたのかはよくわからず、山の風の怖さを知りました。

【行程】

12/5 登山口(6:50)～矢場ノ頭(9:25)～茂倉小屋(12:33)

12/6 茂倉小屋(6:52)～茂倉岳(7:13/20)～笹平(8:14)～武能岳(8:55)～蓬ヒュッテ(9:40/10:00)～東俣沢出合(11:21/37)～登山口(12:34)

【地形図】

土樽、茂倉岳